

(別紙様式1-2)

道徳教育地域支援委託事業実施計画書（令和6年度）

1 学校の概要

- (1) 学校名 高松市立牟礼中学校
- (2) 所在地 高松市牟礼町牟礼46番地2
- (3) 学年別児童生徒数及び学級数、教員数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援学級	児童生徒数計	教員
4学級 122名	4学級 115名	4学級 122名	4学級 13名	372名	28名

2 研究主題等

(1) 研究主題

なかまとともに豊かな心を育む道徳教育 ～自己を見つめ、互いに高めあう授業の工夫～

(2) 研究主題設定の理由

本校の課題や特色を踏まえ、①自己肯定感、②地域とのかかわりの観点から研究主題を設定した。

- ① 校内で行っている学校生活アンケートでは、89%の生徒が学校が楽しいと感じている。一方で、自分にはよいところがある、自分の意見を述べるができる、話し合い活動に積極的であるなどの項目では、それぞれ全体の4分の1の生徒が否定的な回答をしており、自己肯定感の低い生徒が少なくない。本校では6年前から人権・同和教育を主体とした教育課程を実施している。そこで、人権・同和教育で培われた互いに認め合う集団の中で、他者との対話を通して自分と向き合い、自分のよさに気づき、互いに高めあえる道徳の授業をめざしたいと考えた。そのために、効果的に対話を取り入れた学習活動の工夫や、題材を自分事として捉えて考えを深められるような発問について研究し、教師の指導力の向上につなげたい。
- ② 本校は地域との結びつきが強く、地域の行事に積極的に参加する生徒が多いが(55%)、コロナ禍以前と比べると地域とのつながりが希薄になってきている。地域社会の一員として郷土について考える機会を設け、郷土を愛する心を育てたい。

(3) 研究内容及び方法

① 対話し、議論する場の設定と発問の工夫

人権学習で実施している「ほっとトーク」や「クラスミーティング」の活動を道徳の授業にも活用し、自分の意見を伝えたり、他者の意見を聞いたりすることで題材についてさらに考える時間を設ける。効果的な対話の場の設定と思考を促す発問について研究する。

② 地域の課題に密着した教材の工夫

地域教材についての研究・開発を行う。地域の伝統行事に携わる人々が直面している問題について、地域の人材を活用し、教材づくりをする。

3 成果の評価計画

- ・生徒の意識の変容を見取るために定期的に道徳の授業についてのアンケート調査を行う。
- ・大学教授や市教委の指導主事などの外部講師を招聘し、評価していただく。
- ・市内の中学校に校内研究授業を公開し、評価していただく。
- ・地域教材の授業を地域の方に参観・評価していただく。

4 研究成果の普及方法

- ・香中研道徳部会で報告する。
- ・令和8年度 四国中学校道徳教育研究大会で実践発表を行う。